

令和元年度（平成31年度）第2回上天草市総合教育会議 会議録

開催日時	令和2年3月10日（火） 15時～17時05分
開催場所	上天草市松島町総合センター「アロマ」研修室
出席委員の氏名	市 長 堀江 隆臣 教育長 高倉 利孝 教育委員 山下 勝一 教育委員 松本 修吾 教育委員 濱崎 千賀子 教育委員 辻本 幸之助
欠席委員の氏名	副市長 小嶋 一誠
事務局及び関係者氏名 （委員を除く）	教育部長 山下 正 学務課長 赤瀬 耕作 学務課教育審議員 田崎 正明 学務課長補佐 宮崎 真司 学務課教育企画係長 入口 紘光 学務課学務係長 川本 宜史 学務課施設係長 松本 浩平 社会教育課長 原田 和久 社会教育課長補佐 小浦 嘉彦 社会教育課スポーツ推進係長 山崎 大勝 総務課長補佐 大石 智奈美 株式会社ベネッセコーポレーション 藤井 康、平山 由香里
傍聴人の数	1人

## 1 開会

○山下教育部長 只今から、令和元年度第2回上天草市総合教育会議を開催いたします。始めに本日の会議の主催者であります、堀江市長から挨拶を申し上げます。

## 2 市長挨拶

○堀江市長 本日はお忙しい中、令和元年度第2回上天草市総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から本市の教育行政はもとより、市行政全般にわたり、深い御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大によりまして、色々な方面で大きな影響がでているところであります。教育委員会の所管においても、天草パールラインマラソン大会の中止や小中学校の臨時休校など、学童保育の受入れを拡大しながら対応をしているところでありますが、子供たちのストレスも溜まってきて難しい状況になっています。県の判断もそうなんです、国の方も特別措置法に向けた取組みを加速化しておりますので、国の動向を見ながら対応していきたいと考えています。いずれにせよ、しばらくは新型コロナウイルス感染症の対応というのは難しいところがございますので、教育行政については教育委員会の皆様にも御理解をいただきながら判断していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。本日は、学務課、社会教育課から議題を一つずつ挙げています。忌憚のない御意見をいただきながら教育行政と一般行政のそれぞれの立場で理解を深めながら今後の発展に努めてまいりますので皆様の御協力をよろしくお願いいたします。本日協議いただく議題については、いずれの内容も市長部局と教育委員会とが連携して進めて行くべき事項でございますので、活発な御意見を願ひし、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

## 3 会議公開協議

○山下教育部長 会議の開催に当たり、上天草市総合教育会議運営要綱の規定に基づきまして、会議の公開について、御協議させていただきます。本日の会議は、設置要綱第6条ただし書で定める非公開とすべき議事であり「個人の秘密を保つため必要があると認められる場合」又は「会議の公正が害されるおそれがあると認められる場合」に該当せず、会議を公開してよろしいかお伺いします。

<異議なしとの声あり。>

○山下教育部長 御異議がないようですので、本日の会議は公開とさせていただきます。それでは、議題に入らせていただきます。これ以降の進行については、運営要綱第4条に基づきまして、堀江市長に進行をお願いいたします。

## 4 議題

### (1) 学習用端末1人1台時代における学校教育の在り方について

○堀江市長 それでは議題1「学習用端末1人1台時代における学校教育の在り方」について事務局より説明をお願いします。

○赤瀬学務課長 初めに、先般、国が示した「GIGAスクール構想」の実現に向けた取組により、本市においても「学校における通信ネットワーク及び1人1台端末の整備」を計画していることから、今後の学校教育の在り方について、協議をお願いするものです。資料の1ページをご覧ください。まず、来年度からスタートする新学習指導要領の「情報教育・ICT活用教育関係のポイント」について説明します。小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面实施され、高校では2022年から年次進行で実施されます。この新学習指導要領においては、

情報教育に関する小、中、高等学校の共通のポイントとして、情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実について、新学習指導要領にも明記されています。また、学校別のポイントとしては、小学校プログラミング教育の必修化を含め、小、中、高等学校を通じてプログラミング教育の充実について示されており、小学校では、文字入力などの基本的な操作の習得に加え、新たにプログラミング的思考の育成。中学校では、技術分野においてプログラミングに関する内容の充実が求められます。次に、資料の2ページをご覧ください。これまでの国の動向につきましては、文科省は平成29年12月に「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」を策定し、学習者用コンピュータ「3クラスに1クラス分程度」の導入など、整備すべき目標水準を示し、国はこれらの整備に対する財政支援措置を行っています。また、昨年6月には、学校教育の情報化の推進に関し、基本理念、国、地方自治体等の責務、推進計画などを定めることにより、施策を総合的かつ計画的に推進し、もって次世代の社会を担う人材の育成に貢献することを目的に「学校教育の情報化の推進に関する法律」が施行されました。なお、国の「総合イノベーション戦略2019」では、パソコンなどのデジタル機器は、これからの学校教育において、机や椅子と同等に児童生徒1人1人に用意されるものであることを学校教育の現場に十分浸透させるとともに「パソコン1人1台」をはじめ、あるべき教育基盤の早期実現について閣議決定されています。このことを受け、昨年12月の総合経済対策において文科省では、GIGAスクール構想を策定し、この構想実現のための財政支援を実施することとなりました。資料の3ページをご覧ください。GIGAスクール構想とは、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち1人1人に個別最適化された教育ができるICT環境を実現するというものです。この構想を実現するため、校内通信ネットワークの整備について、令和2年度の事業を対象に、事業費の2分の1を助成、児童生徒1人1台端末の整備については、令和5年度までの整備を対象に、全児童生徒の3分の2の端末について1台あたり定額4万5千円の助成が行われることとなっています。また、措置要件として、各自治体においてICT活用計画や教育スキル向上などのフォローアップ計画等の作成が要件とされています。資料の4ページをご覧ください。国のGIGAスクール構想の実現に向け、本市においても、財政支援措置や国庫補助を活用して学校ICT環境整備を進めて行く計画としています。1人1台のタブレット端末の整備については、本年度、小学校において、各学校3人に1台程度端末を整備しており、令和2年度は、中学校において全ての学年に1人1台端末の整備を行い、令和3年度に小学校5、6年、令和4年度に小学1～4年に1人1台端末を段階的に整備する計画としています。校内LANの整備については、小中学校ともに今年度に整備を完了します。電子黒板の整備については、今年度には小学校を、令和2年度に中学校の整備を完了する計画としています。資料5ページをご覧ください。それでは、1人1台端末と高速通信で学びがどう変容するのかということですが、これまで実施してきた学習実践とICTを組み合わせることで、学習活動の一層の充実と主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が期待されています。具体的には次のような学びの変容があるとされています。一斉学習では、授業中でも1人1人の反応を把握できるとされ、個別学習では、各児童生徒が同時に個々の内容を学習することが可能となります。また、協働学習においては、各自の考えを即時に共有したり編集し合ったりできるなどの授業改善も見込まれています。資料6ページは、202X年の教育現場の未来のイメージ図です。文科省は、令和元年6月に、新時代に求められる教育の在り方や、教育現場でICT環境を基盤とした先端技術が活用された将来の教育現場イメージについて具体的に示しています。まず、教育の視点においては、子供の登下校の情報や校長からの指示事項の確認、昨日宿題にしておいたAIを活用したドリルに子供がいつ取り組んだか、どの問題で、つまりいたかを自動的に分かりやすく、データで確認できるようになります。また、過去の授業データから子供の理解度

に合わせた指導案や教材を提供することも容易に出来るようになります。子供の視点においては、授業において、VR技術を使ったソフトを用いて、まるで月や海に行ったかのような感覚が味わえるなど、写真やビデオで見ると違う臨場感があり、更に興味関心を高めることが出来ます。また、欠席した日は、手元に授業の動画と課題等が送られ、効果的な問題が提供されるなどが想定されています。保護者の視点においては、スマートフォンで、学校からの連絡事項や子供の学校での状況はもちろん、成績等のデータを確認でき、学校への連絡や書類の提出も簡単にできます。教育委員会の視点からは、学校ごとに集約されたデータを教育委員会も参照することができるため、学校にわざわざ調査依頼をすることがなくなり、双方とも便利になります。また、教員への研修は、手元のタブレットで研修を受講することができるかとされています。なお、これらの活用場面や効果は、現時点の技術から想定されていることを示しているものであり、技術の進展によっては、現在想定されていない活用場面や効果が次々と生まれることが想定されます。では、ここで、学校の現場においてどのようなICT教育が行われているか、実際に体験いただきたいと思います。本日は、各学校でICT支援員として授業をサポートをしているベネッセコーポレーションの方に説明していただきます。

(ベネッセコーポレーションの担当者によるタブレットを使ったデモンストレーション(説明省略))

○赤瀬学務課長 学校におけるICTの活用のイメージについては御理解いただけたと思います。これまでのことから、新時代に求められる「ICTを活用した学校教育」の可能性は大きいものと言えますが、ICTは、これまでの紙の資料、書籍等に置き換わったり、「読む、書く、計算する」の学習場をなくしたりするものではなく、従来のノートや鉛筆と同様にあくまで一つの道具・手段です。今後のICTの活用推進に当たって注視すべきことは、ICTの整備状況や活用頻度ではなく、ICTを活用してどのような力を伸ばすかということをして市、教育委員会、学校が共通認識として持つことが重要です。そこで、市、教育委員会と学校が基本的な考え方と方向性についての共通のビジョンを持ち、より効果的なICT運用を推進するため、学校ICT運用に関する目標と取組方針(案)をまとめました。目標を、「ICTを活用した教育環境を整備することにより、Society5.0時代を生きる本市の子供たちが、誰一人取り残されることなく、個別最適化された学びを実現し、新しい時代で活躍するために必要な資質・能力を育成すること」としています。なお、目標を実現するための取組みの方針として、次の3つの項目を挙げています。1つ目は、ICT環境の整備として、授業や校務において、日常的にICT機器が活用できる環境を整備するもので、学校の通信ネットワークと児童生徒1人1台端末の整備。ICT支援員の拡充や機器トラブル等に対する技術支援等のサポートの充実を図るものです。2つ目は、教育の質の向上として、教育現場においてICTを活用することで、新しい時代で活躍するための基盤となる力の習得と、教育の質の向上を目指すもので、具体的には、ICTを活用した授業やタブレットを活用した家庭学習や教員向けの研修の充実を図るものです。3つ目は、働き方改革として、教職員が心身ともに健康で、ワークライフバランスを実現できる環境を整え、子供たちと向き合う時間を確保し、やりがいを持って効果的な教育活動を持続的に行うことができる環境の実現を目指すものです。具体的には、ICTを活用した情報共有、会議等のペーパーレス化、電子会議、eラーニング研修の推進などの業務効率化を検討するものです。また、これらの取組みを推進するため、有識者や学校関係者、行政でつくる「上天草市学校ICT推進協議会」を組織し、より具体的な計画とするため、学校ICT推進計画の検討や研修内容の「検討及び実施」、各学校における取組状況の進捗確認、課題の研究などを行ってまいります。今後は、これらの目標と取組方針に基づき、次年度には本市の学校ICT推進計画を策定したいと考えています。社会での情報

化が進む中で、大きく遅れている学校現場におけるICT化は、必然不可欠なものであり、本市においても更に学校におけるICT教育を推進して参りたいと考えていますので、これからやってくる1人1台端末時代における学校教育の在り方について御協議をお願いいたします。

○堀江市長 それでは、只今の説明について御質問や御意見はございますか。

○山下教育委員 学校ICT運用に関する目標と取組方針（案）の目標のところですが、誰1人取り残されることなく、とありますが、取り残されるという言葉が発展的な言葉に置き換えられないのかなあと思いました。

○赤瀬学務課長 文科省の指針を目標にしているものです。

○山下教育委員 表現がネガティブなので、もっと前向きな表現に置き替えた方が目標としてはいいのかなと思います。

○堀江市長 例えば、子供たちみんなが平等とか。

○山下教育委員 そうです。平等とかの表現が目標としてはいいと思います。

○松本教育委員 百聞は一見に如かずで、先程実際のタブレットを使った学習を体験してみて、先生の授業がより進めやすくなると思えました。英会話にしても活きたものを使えるようになってきましたよね。どのくらい子供たちに活かせるのか楽しみです。先生たちの役割としては、子供たちに興味を持たせることが重要だと思います。興味を持たせて取り組んでいく姿勢を支援することで、この分野であれば僕に任せなさいというようなことができれば、自信を持たせることにもつながることができそうです。そうなることを楽しみにしています。

○堀江市長 タブレットは家庭学習用として持ち帰らせた方が、効率的な活用ができるんですよ。学校ICT運用に関する目標と取組方針（案）の取組みにおける検討事項にあるように、タブレットを持ち帰らせた場合のセキュリティーや破損、目的外利用とかそのあたりの対策とかはどのように考えているのでしょうか。

○赤瀬学務課長 現状では、タブレットを持ち帰ることについては検討課題としています。セキュリティーや破損などのリスクがありますので、現段階では学校の中での使用を想定しています。先進地では、家庭と学校で1台ずつ整備しているところもあり、そのような環境が整えば自宅での学習も可能になると考えています。

○堀江市長 2台あっても破損は考えられるのでは。

○赤瀬学務課長 佐賀県の事例では、家庭からご負担をいただいて整備をしているようなところもあるそうです。

○堀江市長 ベネッセさんにお聞きしたいんですけど、他の自治体ではタブレットを家庭に持ち帰って使うという事例が多いのでしょうか。

○ベネッセコーポレーション 1人1台の環境にこれからしていこうという自治体が多いのですが、熊本市さんも今はなっていない状況ではあるのですが、タブレットを生徒が順番で使っているなかで、先生によっては持ち帰らせるといったこともやられています。

○堀江市長 ケースバイケースということですね。熊本市もこれから整備されるんですね。

○ベネッセコーポレーション はい、熊本市さんもこれから1人1台を整備されるのですが、家庭での利用も想定されていると思います。

○堀江市長 セキュリティー上の問題は、どのようなことが想定されますか。例えば、個人の成績とかが流出するといったことが考えられるということですか。

○ベネッセコーポレーション 先程見ていただいた弊社のドリルシステムは、オフラインで利用することを想定していますので、学校に来た時にサーバーにつながって、家庭で取り組んだ内容が確認できる形になっています。

○堀江市長 そうなるとセキュリティーの課題は少し解決されますよね。

○ベネッセコーポレーション はい。守られた状態で、アプリケーションの中でしか見られませ

るので、情報が外に出ることはないということになります。

○堀江市長 わかりました。いずれにせよ、令和4年度には1人1台の環境が整うということなので、どのように活用するか方針を固めたほうがいいと思います。家庭に持ち帰らせて使用した方が、学習が捗ると思いますけどね。

○松本教育委員 必要に応じて子供たちに持たせた方がいいと思います。個別の対応は今のままでは大変だと思います。これを使いこなせれば、子供たちの学習への興味も引き出せると思うので、将来が楽しみです。

○堀江市長 プログラミング教育というのは、どういう形でやるのですか。1つのカリキュラムができるわけではないでしょ。

○田崎教育審議員 プログラミング科という教科ができるわけではありません。具体的には、算数の中の三角形を求める単元が10時間あったとすると、その中にプログラミングを使った三角形を動かしてみるとか、三角形を作ってみるとか、そのような時間を1時間入れるというのが、各教科でのプログラミングです。それとは別に、プログラミングに特化した形で、ロボットを動かしてみるとか、そういうものは今までやってきた総合的な学習の時間だったりとか、特設の時間をつくって進めていきます。文科省は、その2つを教科の中でプログラミング的な思考を高めていくような時間と特設の時間でプログラミングを使って何かをしていくという2本立てで考えています。

○堀江市長 この前の議会でも話がありましたが、私の印象なんですけど、ICT＝プログラミングと思われている節があると思います。タブレットを使うことがプログラミングではなくて、プログラミングというのは、子供たちの論理的な思考というか、そういったものをプログラミングで育むということだと思うんですよ。教育委員会としても、そのことは発信していくことが必要ではないかと思います。他に、御意見等はございませんか。

○山下教育委員 先日姫戸小学校のオープンスクールに行った時に、4年生が天草陶石についてインターネットにつなぎながらプレゼンテーションの資料を作っていく授業を見せていただきました。1人1台ずつタブレットがあったので、インターネットを使って非常に楽しく、上手く作っていました。最終的には、8枚から10枚くらいの資料でプレゼンテーションをしてくれて、先生方が1人1人のプレゼンテーションの内容を見ながら対応されていて、非常にいい授業であると思いました。4年生でそういうプレゼンテーションができるとういのはすごいと思うし、プログラミングの授業でも、物を動かすプログラムを作ったという話だったので、私たちも先程実際タブレットを触ってみて非常に面白かったので、上手く興味を持っていてくれる流れになったら有効であると思います。担当の先生にお尋ねしましたところ、少し教えてあげたら子供たちはどんどん進めていきますよという話をされていたので、自分も実際体験してみて、そうであると感じたところです。

○辻本教育委員 誰も取り残されることなくという話がでていましたが、資料を作ったり、バーチャル的な体験であったりすることで、教育の底上げができるものなので、先生方の使い次第で、より効果的な教育ができ、更に可能性が広がると思います。あと、タブレットが壊れた時の保証はどうなっていますか。

○赤瀬学務課長 費用的な面から考えて、保証費を払って修繕するよりも新しく買い替えた方が効率的です。

○堀江市長 タブレットの購入については、国からの助成金は1台当たり4万5千円ですよ。業界としては児童生徒用に使用するための機能を限定した機器の提供が整っているのでしょうか。

○赤瀬学務課長 ウィンドウズやアップル、グーグルの製品などがあるのですが、機能的にはウィンドウズ版が若干高いと感じています。また、国は学習用端末の基本的な仕様を示していますので、これに沿った機器を導入する予定です。

○堀江市長 義務教育は9年間なので、9年同じ端末を使うことは考えられない。9年の間に1回くらいの更新は必要になるだろうと思います。しかし、財政的な負担もあるので、フルスペックの機能というよりも、教育に必要な機能に限定したもので、価格を抑えたものを導入することは、継続性を考えると必要だと思います。他に、ございませんでしょうか。無ければ、次の議題に移りたいと思います。

## (2) 第50回天草パールラインマラソン大会について

○堀江市長 それでは、議題2「第50回天草パールラインマラソン大会」について事務局から説明をお願いします。

○原田社会教育課長 第50回天草パールラインマラソン大会について御説明いたします。天草パールラインマラソン大会につきましては、昭和48年に健康マラソンとして第1回大会を開催してから、令和3年度(令和4年3月13日)に第50回を迎えます。本市の一大イベントであることから、第50回記念大会として開催するに当たり、本大会の在り方について御協議をお願いするものがございます。資料の1ページを御覧ください。大会の概要を記載しています。第1回大会は、昭和48年3月11日に271人の参加で行われました。上天草市(旧大矢野町)と熊本走ろう会が主催となり、「健康マラソン」として速さを競うのではなく楽しく走ることでの健康増進を目的に、当時の加地正隆熊本走ろう会会長が中心となって開催されました。スターターを同走ろう会名誉会長の金栗四三氏が務められております。当初、20kmコースについては、永浦島を折り返すコースで行っており、第3回大会から5号橋、第12回大会からは4号橋を渡って折り返すコースとなっています。参加者につきましては、健康マラソン及び、「全国壮年ロードレース」として開催したことで、40歳以上のランナーを対象としていました。なお、資料には記載はしていませんが、第2回大会からは、熊本医師会の協力を得まして、医師が赤十字の腕章を付けてランナーと一緒にコースを走られています。第4回大会では、健康ブームが広がり、初めて参加者が1,000人を超えました。この大会から、全国に先駆けたおもてなしとして、大漁旗を掲げた漁船の海上応援、住民が太鼓や小旗を使い、町を挙げての応援が、全国紙でも取り上げられるほど当時話題となりました。第7回大会では、加地会長の大会挨拶の中での一言「遅いあなたが主役です。」が、全国の老壮年の共感を呼び、健康マラソンの草分け的大会として、40年以上たった今でも大会のキャッチフレーズとして使用しています。第10回大会において、参加者が4,000人を超え、第20回記念大会では、参加者が6,089人となり、大会の歴史の中で最高参加者数を記録しました。なお、第20回大会を境に参加者の減少がみられるようになりました。減少の原因として、全国各地でマラソン大会の開催が相次いだことと、20kmコースの変更により、天草五橋を走れなくなったことが原因と考えております。減少を食い止めるために、第30回大会では、新規ランナーの開拓の一環として、ファミリーの部を新設しました。第37回大会では、年齢制限を30歳以上へと繰り下げ、第42回大会では、男子18歳以上へ繰り下げて参加者増を目指しました。第39回大会では、平成23年3月11日に発生しました、東日本大震災の影響により、初めて大会が中止となり、本年度の第48回大会につきましても、新型コロナウイルス感染防止のため中止とさせていただきます。以上が、パールラインマラソン大会のこれまでの概要でございます。2ページをご覧ください。これまでの記念大会の概要をまとめています。第10回大会では、記念イベント等は行わず、記念Tシャツを作成しまして、参加者に配布しております。第20回大会では、「健康マラソン発祥の碑」を現在の上天草警察署横に建立し、現在は、警察署の建て替え工事のため、海遊公園の10kmスタート地点に移設しております。また、20回連続出場者51名を表彰しております。第30回では、前夜祭に元オリンピック選手の宇佐美彰朗氏を招いたトークショーを行い、山鹿灯籠踊り、牛深ハイヤ踊り、高橋裕士&筑紫太鼓のセッションで記念大会を盛り上げました。また、第30回記念行事として、

30回連続出場者20名を表彰するとともに、第1回大会から救護や仮設風呂などの提供をいただいております自衛隊の第8特科連隊や運営にご協力いただいております10団体に感謝状を贈呈しました。第40回大会では、前年度に発生しました東日本大震災の復興イベントとして位置づけ大会を開催しました。宮城県松島町から2人の市民マラソンランナーを招待しております。なお、復興募金を行うとともに「がんばろう日本」の旗に参加者からの寄せ書きを行い、日本赤十字社を通して送っております。ゲストランナーにつきましては、宗兄弟をお招きし、記念大会を盛り上げていただきました。また、40回連続出場者6人を表彰し、この大会からコースを、20kmからハーフマラソン(21.0975km)に変更しました。第50回大会につきましては、令和4年3月13日に開催予定でございます。ランナーや市民の方がより多く参加していただけるような大会になればと検討しているところでございます。3ページを御覧ください。第50回大会に向けての検討課題といたしまして、大会の現状、想定される要因、今後の課題について分析しております。現状につきましては、熊本県内からの参加者やハーフマラソンの部等は減少傾向にあります。4.2km、ファミリー、市民ランナーは横ばいの状況となっています。参加者が伸び悩んでいることの要因としまして、九州及び県内マラソン大会が乱立し、ランナーの選択肢が広がっていることが考えられます。資料にありますとおり、2月から3月にかけて九州管内でフルマラソン、ハーフマラソンと13の大会が開催されており、ランナーの選択肢が広がっていることがわかります。課題といたしまして、熊本県内の参加者数の増加。新規ランナーの開拓。天草パールラインマラソン大会ならではの魅力の発信。また、10kmの部と4.2kmの部のコースが重複しており、新たなコースの検討などが課題と考えております。4ページをご覧ください。

過去10大会の参加者数の推移をグラフ化しております。第37回大会を除けば、参加者は4千人台で推移している状況でございます。5ページをご覧ください。天草パールラインマラソン大会は、参加いただくランナーの方々をはじめ、市民の皆様が主役であり、熊本走ろう会や協賛企業など、様々な方の御協力により大会が運営されております。大会事務局では、2年後に迎える第50回記念大会において、芸能人などのビッグゲストの招へいや50回連続出場者の表彰など、様々な検討を行っているところですが、具体的な方策が決まらないのが現状でございます。本日の会議におきまして、第50回記念大会及び今後のパールラインマラソン大会のあり方についてご協議いただければと存じます。

○堀江市長 只今の件について、御質問や御意見などはございませんか。

○松本教育委員 資料にある他のマラソン大会のうち天草パールラインマラソン大会は参加者数ではどれくらいの位置にありますか。

○原田社会教育課長 天草パールラインマラソンは4千人強の参加者数でございます。資料に挙げている他のマラソン大会の全ての参加者数を把握はしていませんが、参加者数ではこの中の中間くらいだと思います。

○松本教育委員 福岡の大会の参加者数はどのくらいですか。

○原田社会教育課長 申し訳ございません。参加者数まではわかりません。

○松本教育委員 天草パールラインマラソンの目標参加者を1万人とされていますが、今の参加者数の倍でしょ。どこからどうやって呼んでくるのか、市民の参加者を増やすのか、後6千人をどうするのか検討が必要ではないでしょうか。

○堀江市長 指宿菜の花マラソン大会も参加者は多いですが、以前聞いた話では、天草パールラインマラソン大会に指宿から視察に来ていたという話を聞いたことがあります。全国的に1,800程の市民マラソンがあって、競争が激化しているというのと、以前から比べると、フルマラソンの人気が高いと言うか、公式の距離がある大会が人気というので、10年前からパールラインマラソン大会でもハーフの距離を設定して、いろいろな意見はありましたが、記録を計測する



ことまではやっている状況です。これだけ、2月から3月にかけていろいろな大会があって、ランナーにとって選択肢がありますが、パールラインマラソン大会のように2号橋から4号橋を走るコースは他にはない魅力があるコースだと思っていて、目指せ1万人をスローガンにやっているんですが、現在の4千人での大会でも大矢野町周辺で大渋滞を起こしているんです。現実的に、今のままでは、仮に1万人の参加者に来てもらっても対応ができないのではないかと考えています。駐車場もあまりない状況で、民地等も借りてバスでのピストン輸送をして対応していますが、昨年は雨で、スタートに間に合わなかったランナーの方もいらっしゃいました。現実的に1万人は厳しいのではないかという思いはあります。50年もやっていると状況も変わると思いますが、50年前のことはわかりませんが、当時の方に話を聞くと、地域の方の参加に対する意気込みが変わってきていますね。現在の参加者のうち上天草市内の参加者は5～6百人くらいなんです。仮に、地元の方の参加者が増えると8千人とかの参加者になると思うんですよ。実は、意外に地元からの参加が少ないということです。いろいろなところで大会運営の協力を依頼しているので、ボランティアに回っている地元の人も多いんですよ。

○**松本教育委員** 1万人となると行ってみたいと思わせる画期的な企画が必要ではないでしょうか。

○**堀江市長** 大会組織委員会の中でも意見として出るんですが、特に走ろう会の会長からは、外国人に来てもらうしかないんじゃないかという意見をいただいています。マイカーで来られると受入れが難しいんですよ。パールラインマラソン大会参加ツアーを企画してバスツアーで来てもらうとか。

○**松本教育委員** 何かそういうことを考えないと5千人参加者を増やすことは難しいですよ。あとは、50周年ということで、地元の方の参加を増やして盛り上げるということも考えられますよね。

○**山下教育委員** せっかく48回も続けてきた大会で、歴史を振り返って見れば、ポイントとなるのは、1つは、ロケーションだと思います。もう1つは、健康マラソン。「遅いあなたが主役です」という言葉は、今のパールラインマラソン大会にとって大きなものだと思います。そうすると、人数を増やすことばかりに目を向けてしまうのは大会を長く続けるという視点からすると、この流れを変質させていく恐れがあるのではないかという思いがあります。だから私は、参加者を1万人に増やすというよりも、健康やすばらしい天草の海や空、食べ物などの魅力で惹きつけるようなことが基本にあった方がいいのではないかと思います。大会参加費はいくらですか。

○**原田社会教育課長** ハーフマラソンは、4,500円。その他は、3,500円です。

○**山下教育委員** 参加費が高い方ではないですね。他の大会は1万円を超える参加費もありますよね。

○**堀江市長** 実は、ランナーの方は参加賞への関心が高くてですね、横島町のイチゴマラソン大会では、参加賞にイチゴがもらえて、コースでもイチゴを食べられるんですよ。確か、パールラインマラソン大会より参加者が多いんですよ。

○**濱崎教育委員** 私もいろいろと参加費とか調べてみますと、4,500円でしたかね。参加費にはTシャツ代も入っているんですかね。内容からすると、参加費も高くないから、山下教育委員が言われたように、1万人という目標よりも、天草五橋を走れるという魅力を打ち出すことと、キャッチフレーズの「遅いあなたが主役です」を活かして、今の中南小学校区の地域で盛り上げていただいているコースもいいのですが、警察等との協議でもっと橋の上が走れるようなコースがあるとちょっと魅力が増すと思います。

○**堀江市長** 今のところ、ハーフマラソンが五橋を走るコースで、その他のコースは橋が渡れないですね。毎年の課題ではあるんですが、10kmコースと4.2kmコースのランナーが交錯するんですよ。これには、参加者からのクレームも多く、前から指摘されているんですが、解決には

至っていない状況です。

○高倉教育長 このマラソン大会は、健康マラソンということですので、以前は地区ごとに走ろう会というものがありませんでした。私が住んでいる大矢野町でも走ろう会の方がジョギングしている姿が見えたんですが、今ではジョギングしている方の姿が見えないんですよ。ということはですね、市民の皆さん自体の健康づくりが低迷下している。これを上げていかないと。よそから来てもらうことも大事ですけども、地元の人達が健康づくりをしながら、健康マラソンの発祥の地の自分の地域のマラソン大会に出るように勧めるべきです、それにはまず、市役所の職員が参加する必要があると思うんですよ。スタッフとしてボランティアするのもよし。走るのもボランティアという考えで、どんどん走ってもらってもいいと思うんですよ。市長から一言声をかけていただきたい。そして、市民の人も走ろう会の人達も高齢であとを継ぐ人が少なくなってきており、今あとを継ぐ人達を育てていかないと健康マラソンの発祥の地にはならないのではないかなと思います。いかがでしょうか。

○堀江市長 走ってくれればいいと思います。確かに、1万人来てもらえば理想だと思うんですけど、今の状況では難しいと思います。人数にはこだわらず、走れる環境を整えていくとか、みんなが走りたがるコースに安全性とか考えて、もう1度検討してみるのもありなのかなと思います。

ただ、今の江樋戸を通るコースも応援が多い所なので、いいコースなんですよ。

○高倉教育長 大漁旗もありますので、いいコースですよ。ただ、10kmコースと4.2kmコースのランナーが交錯するため10kmコースの参加者からクレームもあるようですね。

○堀江市長 本当は、10kmコースと4.2kmコースを分けてできればいいんですけど。50回大会記念コースとして、新しいコースを作ってやるというのも1つの方法かもしれません。濱崎教育委員も言われたように、警察との協議も非常に難しくてですね、国道を走るということで県警としては拘束時間をできるだけ短くしたいというのが本音なんですよ。渋滞も発生しますし。それでも、折衝を頑張ってハーフコースができていますけども、あれ以上時間をかけることになると現実的に難しいと思います。例えば、樋合地域の方を走って距離を稼いでフルマラソンをやるとか、10キロコースにするとか、というのもどうかと思ったりしています。ただ、今のコースを走らないというのも寂しい感じもしますよね。

○濱崎教育委員 維和地域に行くとするのでどれくらいかかるのでしょうか。

○堀江市長 以前維和地域を走るコースもありましたが、参加者が一番少なかったらしいです。五橋が通れなかった時に、維和のコースがあったようです。

○原田社会教育課長 約10回行っています。3,600人くらいまで落ち込みました。

○堀江市長 維和のコースもいいコースなんですけどね。

○山下教育委員 第1回大会から続けて参加されている方はいらっしゃるんですか。

○原田社会教育課長 高森町の方で今年もエントリーされていました94歳の方が1名いらっしゃいます。

○堀江市長 第50回大会に向けてということですが、結論を出すのは難しいですよ。山下教育部長どうでしょう、アイデアでもいただけたらいいですか。

○山下教育部長 そうですね。今後は組織委員会でも話をしていきたいと思っています。

○堀江市長 再来年のことを考えると、大矢野総合グラウンドは工事中でしょ。駐車場のことも考える必要があると思うし。

○山下教育部長 工事期間が第49回、50回大会と重なるので、工事した場合、車は入れられないと思います。

○堀江市長 駐車場からの送迎についても考えないといけないですね。

○山下教育部長 その件についても、今回の大会から考えていこうにしていますが、借りれる土地が無いというのが問題ですね。

○堀江市長 50回記念大会は、10kmコースと4.2kmコースを含めてコースも見直した方がいいかもしれないですね。

○山下教育部長 はい、一番リニューアルしやすい時期ではありますね。

○堀江市長 4.2kmのファミリーコースを変えてみましょうか。

○山下教育部長 はい。

○辻本教育委員 参加者を増やすという意味では、フルマラソンを取り入れて選択肢を広げた方がいいと思うし、横島町のイチゴマラソンのように特産品を渡すのであれば、車エビを渡すとか、50回大会だけでもいいと思います。そうであれば、参加料も上げていいのではないのでしょうか。

○堀江市長 今はパール柑を渡しているんですが、パール柑も人気なんですよ。

○辻本教育委員 もう少し種類を増やしてもいいと思います。

○堀江市長 参加賞に惹かれて参加する人も多いですよ。

○辻本教育委員 仮装の方の表彰をしたりするのもいいと思います。

○堀江市長 仮装の表彰も既にやっていて、減少傾向に少し歯止めがかかったというのはあるんですが、今年はコロナウイルスの関係と玉名のいだてんマラソンと開催日が重なったということで参加者が伸びなかったという原因もあると思っています。今後は、玉名のマラソン大会と同じ日に開催する可能性が高いと思うんですよ。これからは益々競争が激しくなっていきますね。

○堀江市長 ちなみに、第1回天草パールラインマラソン大会のスターターは金栗四三さんなんですよ。また、関係者の方に聞いた話では、市民マラソンとしてはパールラインマラソン大会が一番古いんじゃないかということでした。

○松本教育委員 そうであるならば、尚更市民マラソンとして「遅いあなたが主役です」をアピールしていくべきではないでしょうか。

○堀江市長 今後も第50回大会に向けて、社会教育課としてもアイデアを出していきますので、皆様も面白いアイデアがありましたら事務局までお伝えいただければ幸いです。

## 5 その他

○堀江市長 それでは、最後になりますが「その他」について、何か事務局からございますか。

○赤瀬学務課長 特にございません。

○堀江市長 それでは、委員の皆様から何かございますか。

○山下教育委員 総合教育会議と直接関係ないのですが、上天草高校では学校活性化や情報発信等の取組みをされていて、一生懸命頑張っておられます。私も学校運営協議会にも出席していますが、上天草高校への進学者増につながっていない状況です。これから上天草高校への進学を増やしていくためには、市内中学校の連携というの大きなポイントになってくると思います。大矢野中学校とは連携をしているようですが、他の中学校とは連携できていないということでしたので、中学校との連携を行ってほしいということをお話の中で申し上げてきたところです。熊日新聞でも上天草の海運業の特集がされていますけど、そういう特徴的なものについては、ビジネスプランに盛り込んで学習をされているんですが、今回はもう1つ地場の産業で医療介護関係に従事している方が多いのではないかとということで、このあたりの勉強も取り組んで欲しいというお話をさせていただきました。私のところも老人ホームを経営しているので、福祉科というのが気になっておりました、ここ2年は10人超えていましたが、今年は1桁になりました。せっかく福祉科があるのにつながっていかないというのがありまして、以前の総合教育会議の中でも話をしたと思うのですが、県外からも来れるような環境ができないのかということで、上天草高校の校長先生にも話したことはあるのですが、県外から来てもらうには下宿とか安心して預けられる環境を整えることが必要ではないでしょうかという話でした。できれば、そういうことについても上天草市として関わっていただいて、中学校から高校へ進学する市外の生徒さん方が

安心して上天草高校に来てもらえる環境ができないかなと思います。グローバル文理コースも非常に人気が高まっていますが、ぜひ市にも関わっていただいて安心がもてるようなものにしていただきたいと思います。

○堀江市長 県立高校ではありますが、教育委員会でも関りをもって取り組んでいただきたいと思います。

○赤瀬学務課長 昨年度、小中高連携の起業家教育を補助事業で行っています。昨年度は、事業認定の年でしたので、中学校の授業数の確保が難しかった点がございます。来年度は、中学校の校長に授業数の確保をお願いしていますので、更に連携が進むと思っています。

○堀江市長 実際、中学生と高校生の交流の機会を増やせば、上天草高校に対する理解も深まるし、山下教育委員が言われた福祉過程の生徒が入ると、福祉過程のカリキュラムとか生徒が目指す職業とか、理解を深める機会にはなると思います。地元の高校生と交流することについては、中学生にとってもメリットはあると思うので、教育委員会としても機会をつくっていくことは必要だと思います。

○赤瀬学務課長 地域課題解決型ということで、私達も取り組んでいますので、福祉についても、課題解決のため学校において講師をお願いすることが多くなると思います。

○堀江市長 それでは、よろしくをお願いします。他に、御意見等はございますか。

○辻本教育委員 部活動がなくなりまして社会教育体育へ移行しましたが、子供達が運動する機会が減っています。私の娘も女子バレーをしています。社会体育へ移行し、大矢野地区に女子バレーが1つしかなくて、人数が多いので指導が行き届かないという話も聞いています。中南小校区だけでやっている中南ジェッツの指導者も高齢になられて、指導者の確保ができず、いつまで続けられるのかわからない状況です。子供達の体力向上の面から何か良い取組みができないかというところで、芦北町では空手に力を入れています。有名な全国区の選手を連れてきて指導してもらうなど、町を挙げて空手に取り組んでいます。子供達の体力をつけるため、上天草市でもスポーツだけでなく、まちおこしを含めたところで市を挙げた取組みができないかと思えます。中学校も部活をする子供が少なくなっていると聞いています。小学校で部活がなくなると中学校でも更に部活をしない子供が多くなると思えますので、小学生が運動する機会を増やす取組みでいい方法はないだろうかという思いがあります。

○山下教育委員 芦北町の空手大会は全国や海外からも参加されていますよね。

○堀江市長 そういう取組みができると理想的ですね。

○辻本教育委員 大矢野町には全日本女子バレーで活躍されている小幡真子さんがいらっしゃいますよね。

○堀江市長 今、社会教育課がスポーツ合宿とかスポーツ大会の誘致に取り組んでいるんですが、女子バレーの合宿には参加者が増えているんですよ。ゴールデンウィークや夏休み、年末年始に合宿をやっていますが、年末年始なんかは30校の高校が参加し、延べ宿泊者は1,700~1,800人くらいになっています。令和2年度からVリーグに参加する熊本の女子バレーボールチームのフォレストリーヴズ熊本は、Vリーグへの申請上ホームスタジアムを大矢野総合体育館にしているんですよ。その関係で、公式戦を大矢野総合体育館で開催することになるかと思えますが、少し心配しているのは地元バレーボール協会からの協力が少ないということで、このへんがうまくいくともう少しいい取組みになると思うんですけど、Vリーグにフォレストリーヴズ熊本が出場することによって女子バレーとしての市の雰囲気は出てくると思います。

○辻本教育委員 子供達にも本物のアスリートとの関わりでスポーツの楽しさだったりを感じてもらいたい機会だと思います。上天草市にもスポーツを経験されている方がたくさんいらっしゃいますが、それらの方々を指導者として指導の中心となる人材の育成も必要ではないかと思えます。

○堀江市長 合宿ではクラブチームと合同でやっているのだから、参加チームのレベルも上がるし、クラブチーム側も才能がある選手を見るいい機会になるとの話をされていました。今は、春高バレーに参加するようなチームも、数チーム参加しています。

○辻本教育委員 話は変わりますが、玉名市ではジュニアのバレーボールチームの指導者には時給1,000円を支給されているとのことでした。社会体育の指導者の掘り起しのため、指導者への給与というか手当を支給する環境を整えることも大事だと思います。

○堀江市長 もし、社会体育の指導をしたいという方がいらっしゃれば、我々も積極的にアプローチしたいと思います。指導者そのものが見つからないという場合もありますし、当然指導者も仕事を犠牲にしてやってもらっているのだから、そのあたりのフォローも必要なもので、方法はいろいろあるかもしれませんが、考えていきたいと思います。あとは、指導に情熱を持っている人を市内だけでなく、地域外からも探したらいいと言っています。制度もいろいろありまして、それらの制度を使って来てもらえばいいと思います。社会体育化というのは今後も進んでいくんですが、中学校はどうでしょうか。

○高倉教育長 今のところありませんが、将来的には進んでいくと思います。

○堀江市長 全国的に見ても、クラブ組織でスポーツに携わることが増えていますよね。他にございませんか。

○濱崎教育委員 不登校の子供達については、教育委員会としても対応いただいておりますが、上天草市教育委員会の中に適応指導教室を設置していただけるとありがたいと思います。各教育委員会には適応指導教室を設置しているんですが、上天草市では設置されていません。天草市にはカワセミ学級というのがありますし、八代市には球磨川教室というのがあります。不登校の子供達の教育をどのように施すのかとういことが難しく、卒業は校長の裁量によってできるのですが、卒業しても単車の免許も取れないというような学力の補償も難しいので、適応指導教室が一番いいということではありませんが、選択肢の中に入れて、上天草市にも適応指導教室はあるということが必要だと思います。

○堀江市長 今の件について、事務局の考えはどうでしょうか。

○赤瀬学務課長 適応指導教室の設置についての検討は、これまでも行ってきております。上天草市の地理上、通学の距離が遠くなることから設置場所の選定と、人員の配置を模索しているというのが現状です。例えば、龍ヶ岳、姫戸、松島のエリアで子供さんを保護者が送迎するというのを考えれば、姫戸くらいが場所的にいいと思いますし、上天草市を1つのエリアとした場合は、松島が場所的に適していると思うのです。大矢野中学校の中に適応指導教室ということで、しろやまハウスを設置しているんですが、他の学校の子供達は行けない状況です。

○濱崎教育委員 適応指導教室の設置に向けた動きはしていただいていたんですね。

○赤瀬学務課長 検討はしておりました。

○濱崎教育委員 当初、カワセミ教室は本渡中学校のための教室だったんですが、天草市全体から行けるように、場所を移してされています。大矢野中にあると、他の学校の子供達が行けないので、龍ヶ岳からでも行ける場所があれば保護者が安心するのではないかと思います。

○赤瀬学務課長 最初は、姫戸町の図書館付近を活用できれば学校も近いので管理しやすいのではないかと、阿村中学校の校舎についても検討をしているんですが、具体的などころまでは進んでいない状況です。

○濱崎教育委員 わかりました。ありがとうございました。

○堀江市長 学校じゃない方が、行きやすいですよ。この件については、教育委員会の課題として取り組みをお願いします。他に、御意見等はございませんか。ないようですので、それでは、令和元年度第2回上天草市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。